



学校だより

No.542

令和 4年 11月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

玉川上水の今

校長 岩井 一雄

社会科の学習で東京都について学び、どんなことがよく記憶に残っているか尋ねると、「玉川上水」の名が挙がることが多い、と感じることがあります。玉川兄弟が上水路を掘削して、苦勞の末、多摩川の水を江戸の町に導き、水不足に苦しむ人々を救ったという史実が子供たちの心に響くからだろうと思われま

さて、この玉川上水、令和の現在はどうなっていると思いますか。4年生の子供たちに聞いてみたところ、「今も使われている」「今は使われていない」に分かれました。・・・答えはどちらも間違いではありません。羽村取水堰では、今も多摩川の水のほとんどが玉川上水路に流れ込みます。上水路には澄んだ水が滔々と流れ、その水は途中から村山・山口貯水池にトンネルで導かれています。なおも玉川上水本流を流れる水は、西武拝島線玉川上水駅近くにある小平監視所からトンネルに入り、東村山浄水場に導かれます。つまり、玉川上水上流約12kmは、今も現役で水道原水の導水路として使われているのです。では、その下流の玉川上水路はどうなっているのでしょうか。一時は流水も途絶えて荒廃が進んでいましたが、昭和61年(1986年)に下水の高度処理水を導水して流れが復活し、人々の憩いの場となっています。映像を交えて、4年生の社会科の時間にこのような話をしたところ、子供たちは真剣に耳を傾けていました。

ちなみに現在、水の流れは杉並区高井戸付近で神田川に放流されており、暗渠水路となって残る四谷大木戸には到達していません。しかしつい先日、四谷大木戸まで水を流し、外濠に導き、水質向上の切り札として復活させる案が東京都から発表されました。江戸時代の優れた土木技術が令和の現代に甦るのが楽しみです。

12月の生活目標「寒さに負けず元気に外遊びをしよう・手洗い、うがいをしっかりしよう」

朝晩がとても冷え込むようになってきましたが、晴れると日中は暖かくなります。進んで外遊びをすることによって身体が鍛えられ、健康な生活が送れるようになります。感染防止に努めながら、外遊びの奨励を行っていきます。しかし、厚着のまま体を動かし汗をかくと体を冷やすことがあります。健康に過ごすために脱ぎ着ができる服装で登校させてください。遊んだ後の、「手洗い・うがい」もしっかりと声をかけていきます。